

introduction

今や高齢者は全人口の29%を占めており、今後さらに高齢化が進み、2045年には全都道府県が30%を超えると推測されています。このようななか、運動器疼痛は日本では2,000万人もの人々を悩ませており、4人に1人は膝に慢性疼痛を抱えているといわれます。その主たる疾患が変形性膝関節症(knee osteoarthritis；膝OA)です。これは痛いだけでなく、日常生活動作(activities of daily living；ADL)を障害させ、生活の質(quality of life；QOL)を低下させて廃用症候群に陥るリスクを高めます。さらに就労能力を低下させ、社会・医療経済的にも大きな負荷を与えています。今後、日本は超高齢化とともに年少人口や生産人口が半減する人口減少社会がやってきます。このため、活力ある高齢者の社会参画が必要とされる時代が迫っています。この観点から、OAをどう克服していくかは、超高齢・人口減少社会・日本の喫緊の課題の一つといえます。政府は「人生100年時代」を掲げ、日本の高齢者の身体機能や脳機能は高く、就労に意欲的であることから、健康なアクティブシニアの積極的な社会参画による、活力ある社会を目指すとしています。その日本の未来に、私たち整形外科医がどうコミットしていくか、今、その役割を問われているのだと思います。

高齢化は世界的な潮流でもあります。世界保健機構(WHO)がまとめた10 Factsでは、2050年までに高齢者は倍増し、多くは経済的に恵まれず、死因は心・肺・脳疾患ですが、障害をもたらすのは、視聴覚障害と認知症とOAであると明言されています。高齢化する世界に対して人類はどうあるべきか、まさに日本は世界のフロンランナーともいえ、その観点からもOAの克服はきわめて重要な課題と考えます。

不可逆的な病態をもつOAに対して、健常な状態に可逆的に戻せる早期段階を明らかにすることができれば、進行を遅らせたり、治癒が期待できるかもしれません。また、介入、治療効果の評価標準にもなりえます。そのために早期膝OAを診断し、治療・介入することが必要です。

本特集では、日本におけるOAに関する基礎・臨床研究分野で随一の専門家の方々に早期膝OAの定義や病態、疫学、治療、そしてゲノム解析まで最新のエビデンスを用いて詳細に述べていただきました。本特集を熟読していただき、早期膝OAへの理解を深めるとともに、健康長寿延伸に寄与する診療の参考の一助になれば編者として望外の喜びであります。

島根大学医学部整形外科
内尾祐司